

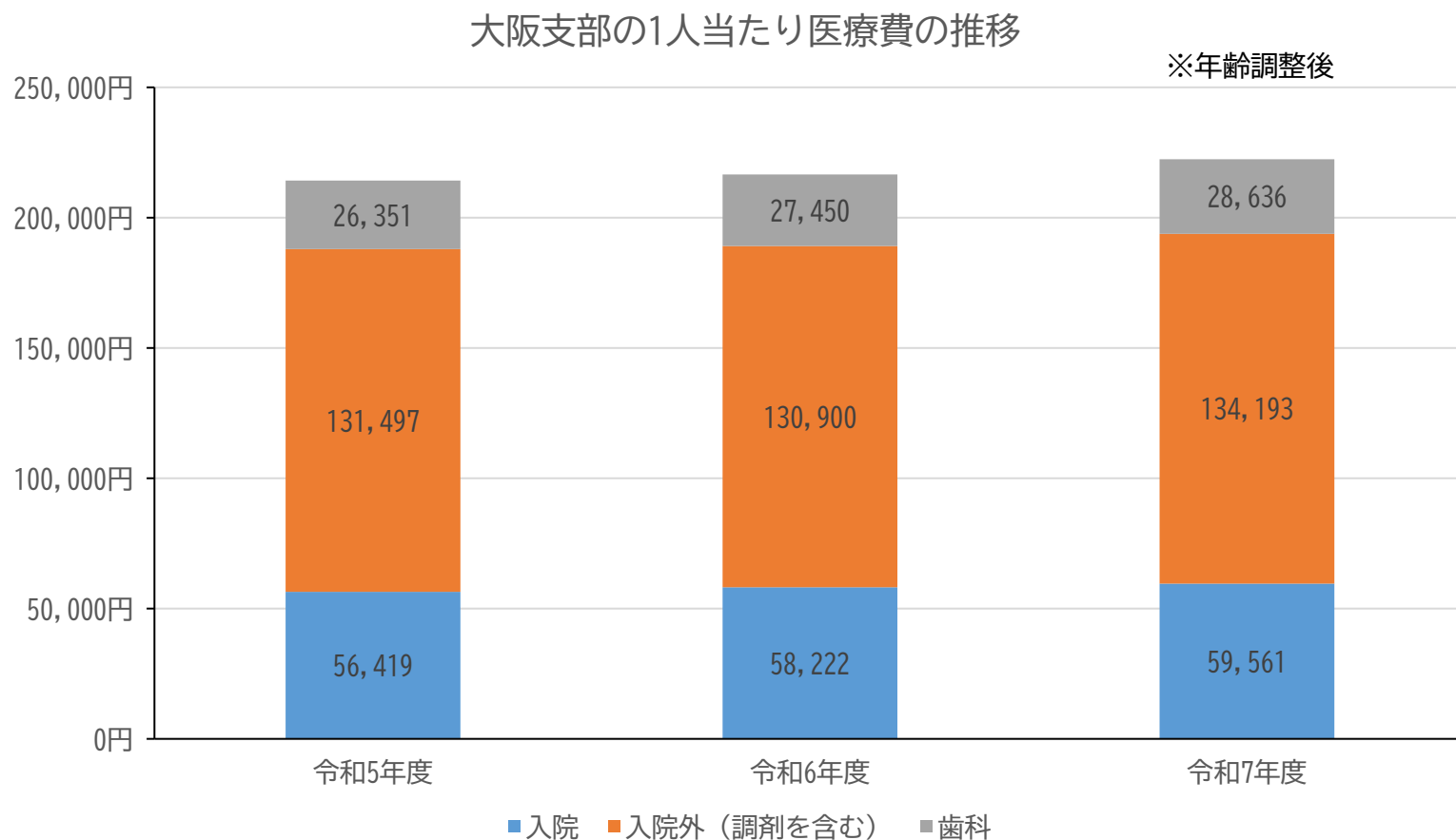
令和7年度大阪支部医療費分析



広報部鳥、けんぽん
©2018、協会けんぽ大阪支部

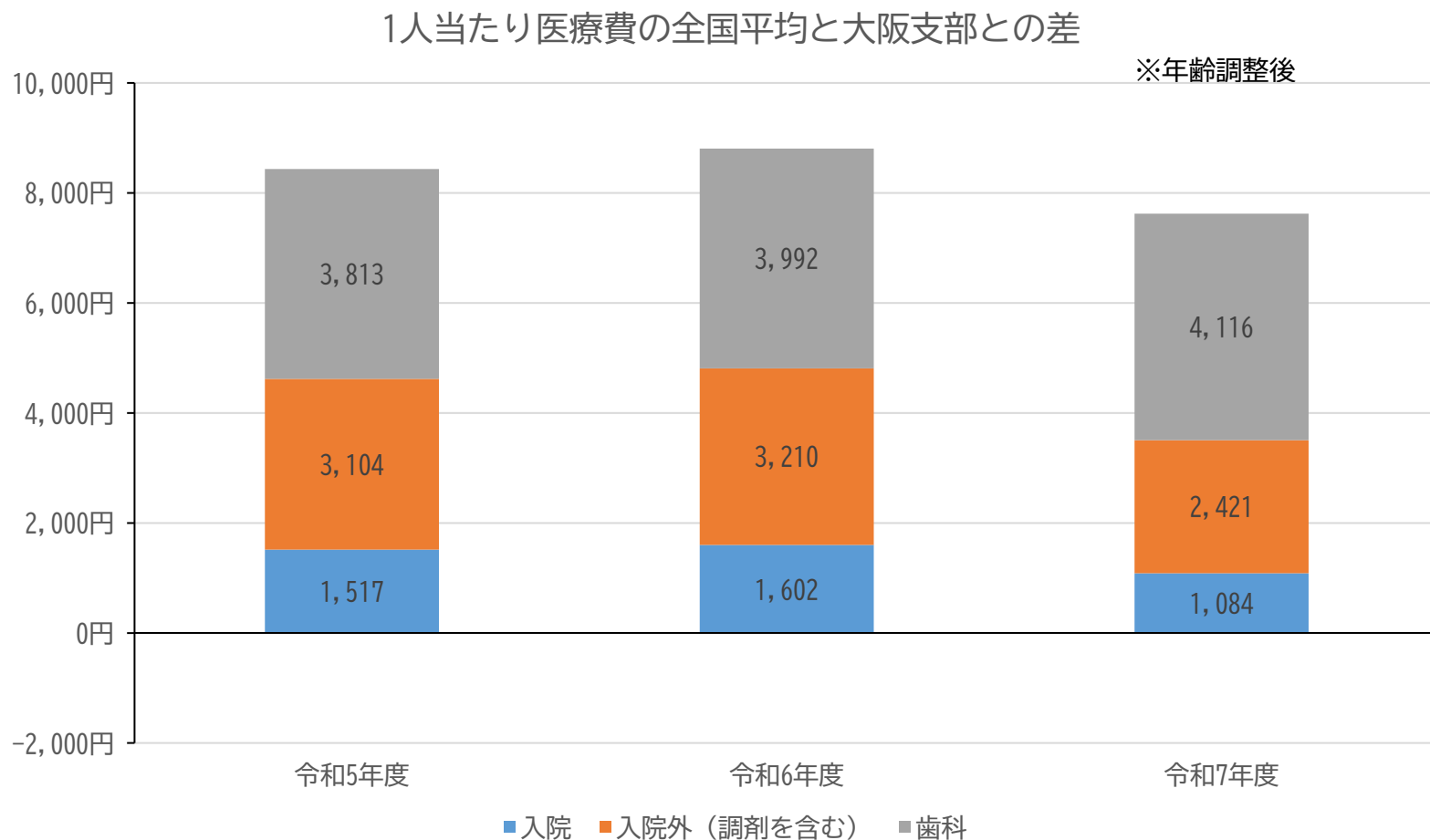
1. 大阪支部の1人当たり医療費の推移

- 令和7年度1人当たり医療費は222,390円で、前年度より5,818円増加した。
- 内訳は、入院が59,561円(対前年度比+1,339円)、入院外(調剤を含む)が134,193円(対前年度比3,293円)、歯科が28,636円(対前年度比+1,186円)となっている。



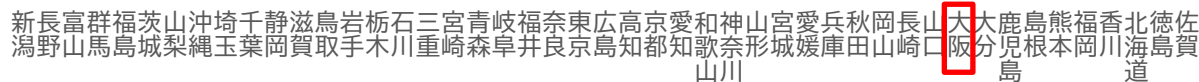
2. 1人当たり医療費の全国平均と大阪支部との差

- 1人当たり医療費を全国平均と比較すると、その差は横ばい傾向である。
- 医療費は全体的に全国平均より高い状況が続いており、特に歯科医療費が高い状況が続いている。



- 令和7年度の加入者1人当たり医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は診療種別(入院・入院外・歯科)すべてにおいて、全国平均との差がプラス傾向にある。

※年齢調整後



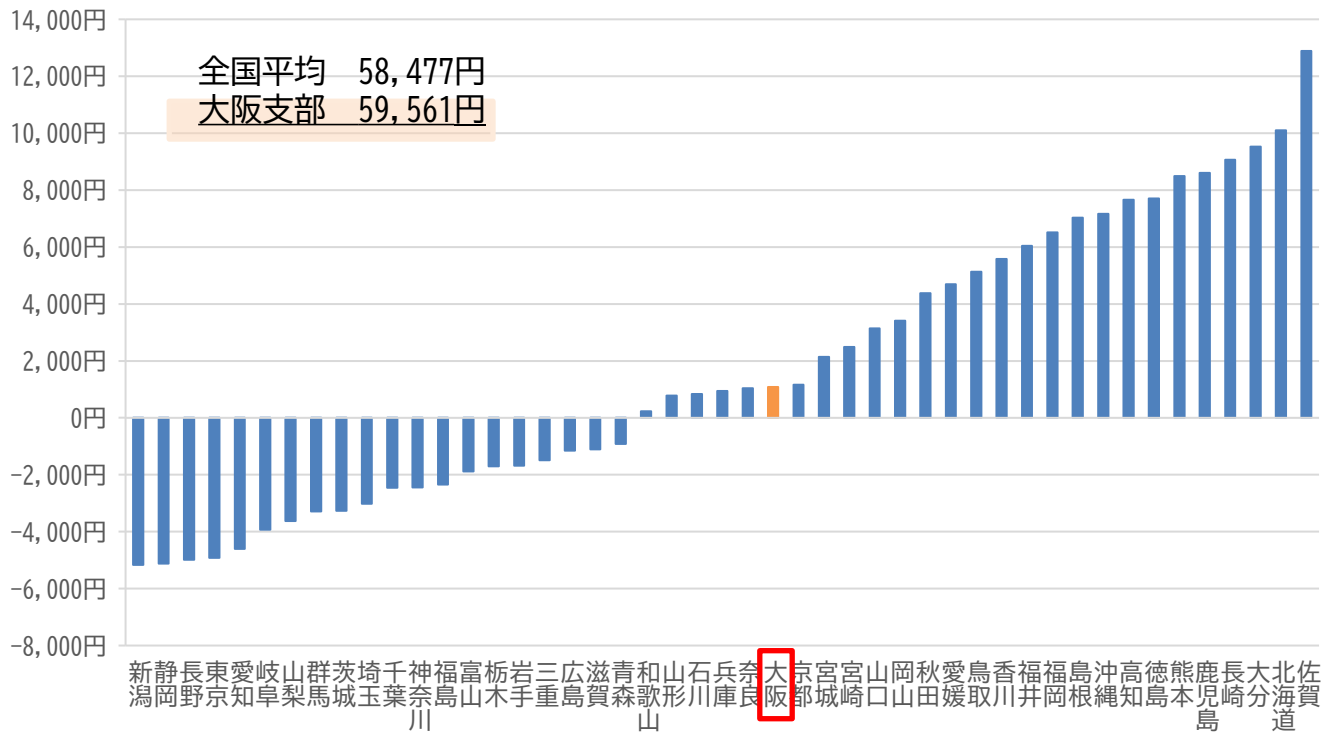
R7 38位
(R6 41位)

1人当たり歯科医療費が高い支部		
1	大阪	28,636円
2	岡山	27,156円
3	愛知	26,976円
4	兵庫	26,940円
5	香川	26,393円
6	福岡	26,327円
11	東京	24,995円
15	北海道	24,026円
47	青森	20,851円
全国		24,520円

4. 支部別の令和7年度1人当たり入院医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和7年度の加入者1人当たり入院医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は、26位で全国平均より1,084円高い。
- 入院受診率、1件当たり入院日数は低い、1日当たり入院医療費が全国4位と高い。

支部別の加入者1人当たり入院医療費（全国平均との差）



R7 26位
(R6 24位)

入院受診率（件／千人）が高い支部		
1	大分	132.3
2	佐賀	123.4
3	長崎	121.6
4	熊本	118.2
6	北海道	114.8
9	福岡	109.2
30	大阪	94.4
41	愛知	88.0
46	東京	84.7
47	静岡	83.5
全国平均		95.6

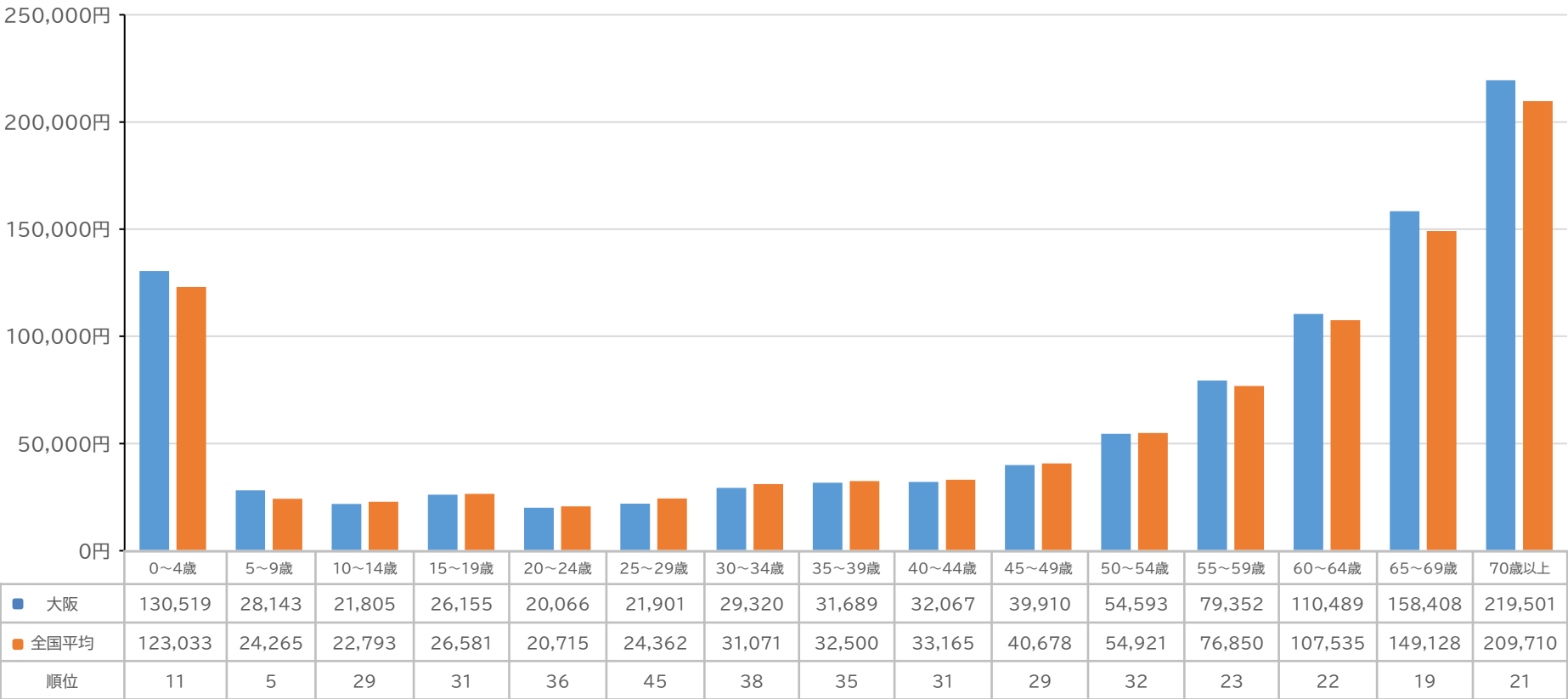
1件当たり入院日数が多い支部		
1	佐賀	10.37
2	山口	10.32
3	秋田	10.21
4	青森	10.13
4	徳島	10.13
20	福岡	9.52
33	北海道	9.10
45	大阪	8.55
46	東京	8.42
47	愛知	8.35
全国平均		9.09

1日当たり入院医療費が高い支部		
1	神奈川	73939.2
2	京都	73654.1
3	東京	73231.1
4	大阪	72426.2
5	愛知	72231.9
14	北海道	67569.7
35	福岡	62134.8
47	佐賀	56413.2
全国平均		67251.6

5. 大阪支部の令和7年度年齢階級別1人当たり入院医療費

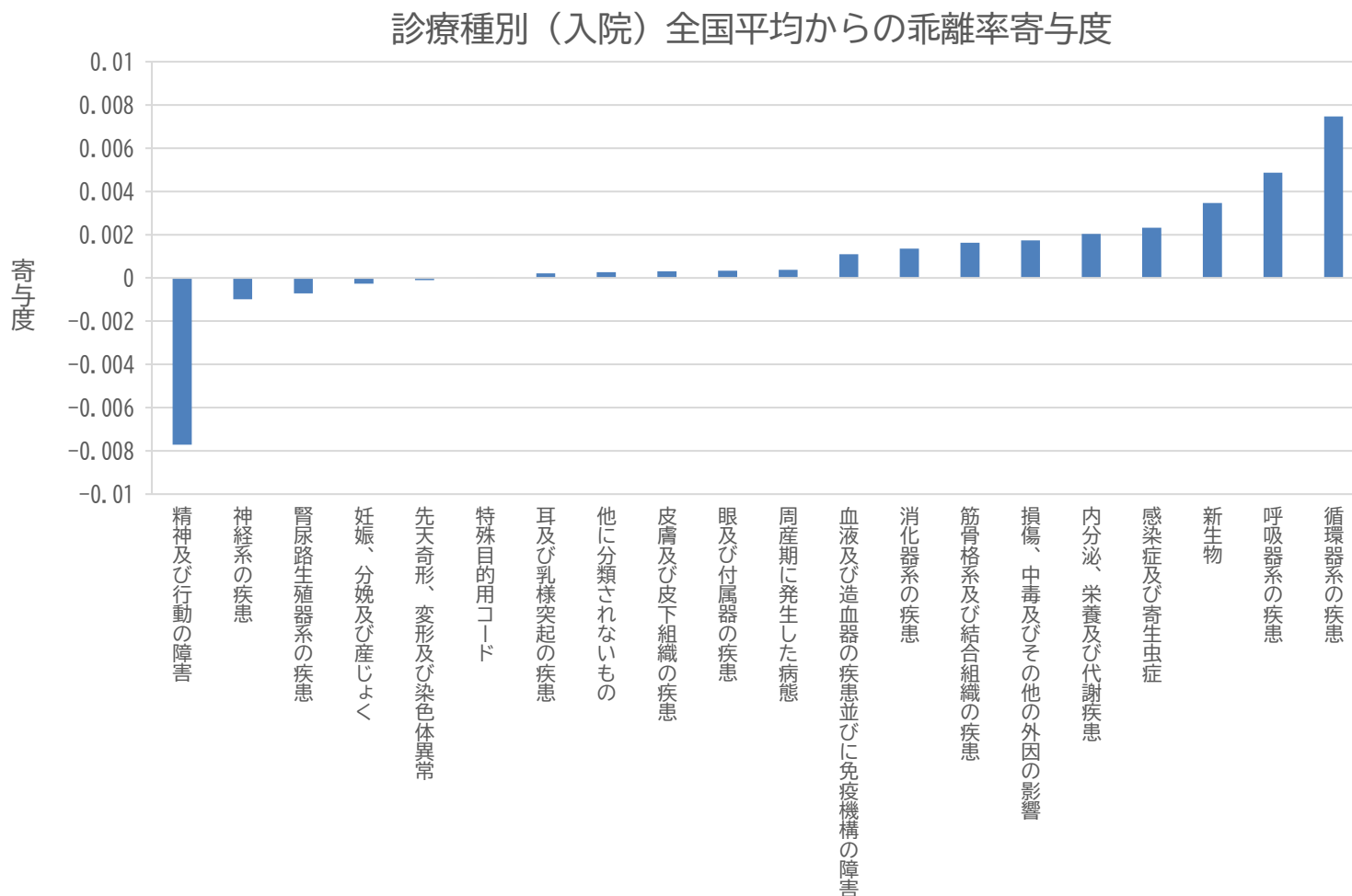
- 加入者1人あたり入院医療費を年齢階級別にみると、0～9歳および55歳以上の年代において全国平均を上回っている。特に0～4歳、65歳以上の年代において平均との乖離が大きい。

加入者1人当たり入院医療費(年齢階級別)



6. 大阪支部の令和7年度疾病分類別の乖離率寄与度(入院)

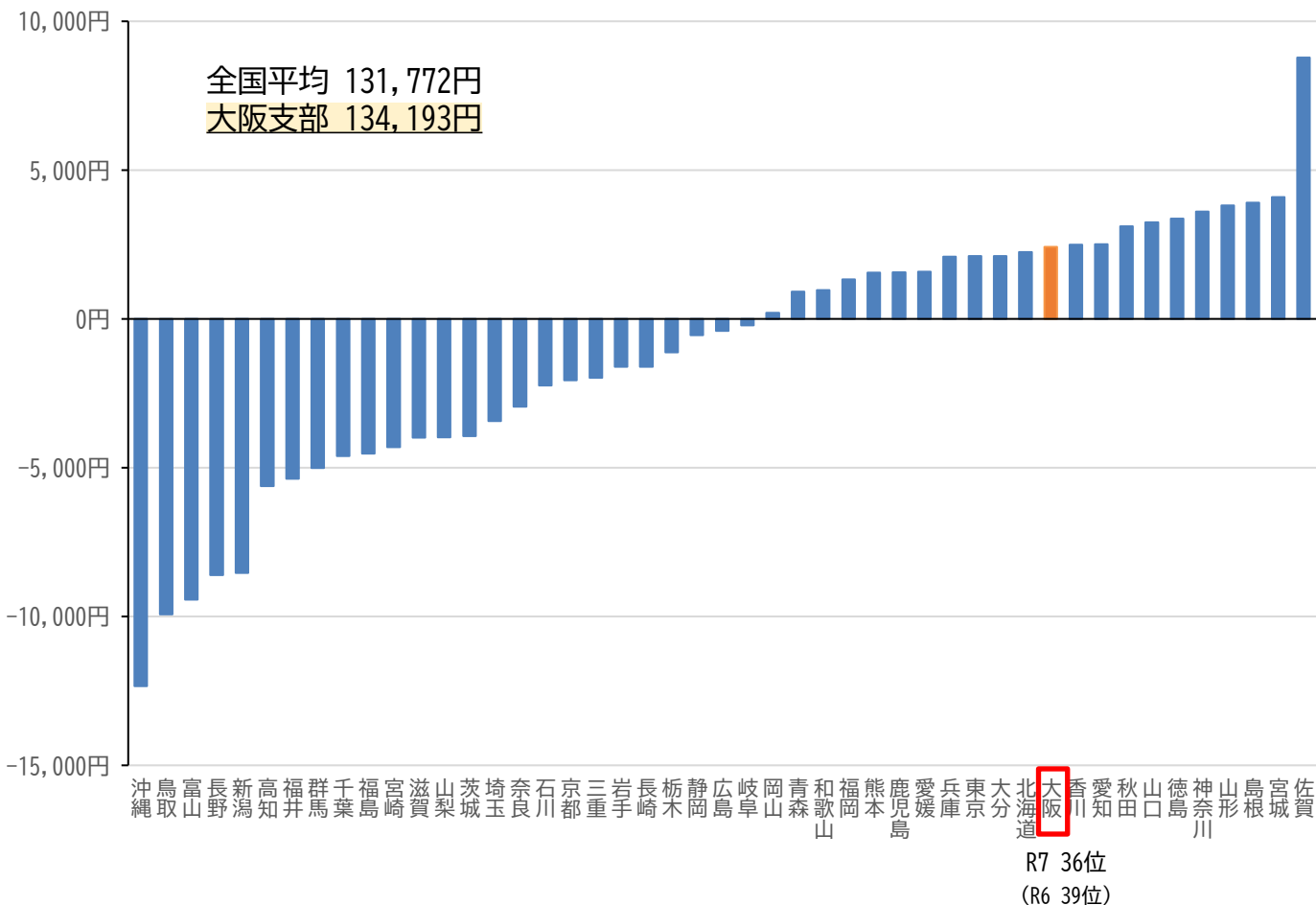
- 診療種別(入院)全国平均からの乖離率寄与度をみると、循環器系の疾患および呼吸器系の疾患において全国平均からのプラスの寄与度が大きく(医療費が高い)、精神及び行動の障害においてマイナスの寄与度が大きく(医療費が低い)なっている。



7. 支部別の令和7年度1人当たり入院外医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和7年度の加入者1人当たり入院外医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は、36位で全国平均より2,421円高い。
- 入院外受診率、1日当たり入院外医療費は全国平均を下回るものの、1件当たり入院外日数が全国平均を上回っている。

支部別の加入者1人当たり入院外医療費（全国平均との差）



入院外受診率（件／千人）が高い支部		
1	山形	7572.4
2	佐賀	7389.1
3	秋田	7358.1
4	和歌山	7350.7
18	福岡	6944.6
24	愛知	6825.0
32	東京	6724.9
33	大阪	6697.9
44	北海道	6373.4
47	沖縄	5869.3
全国平均		6758.9

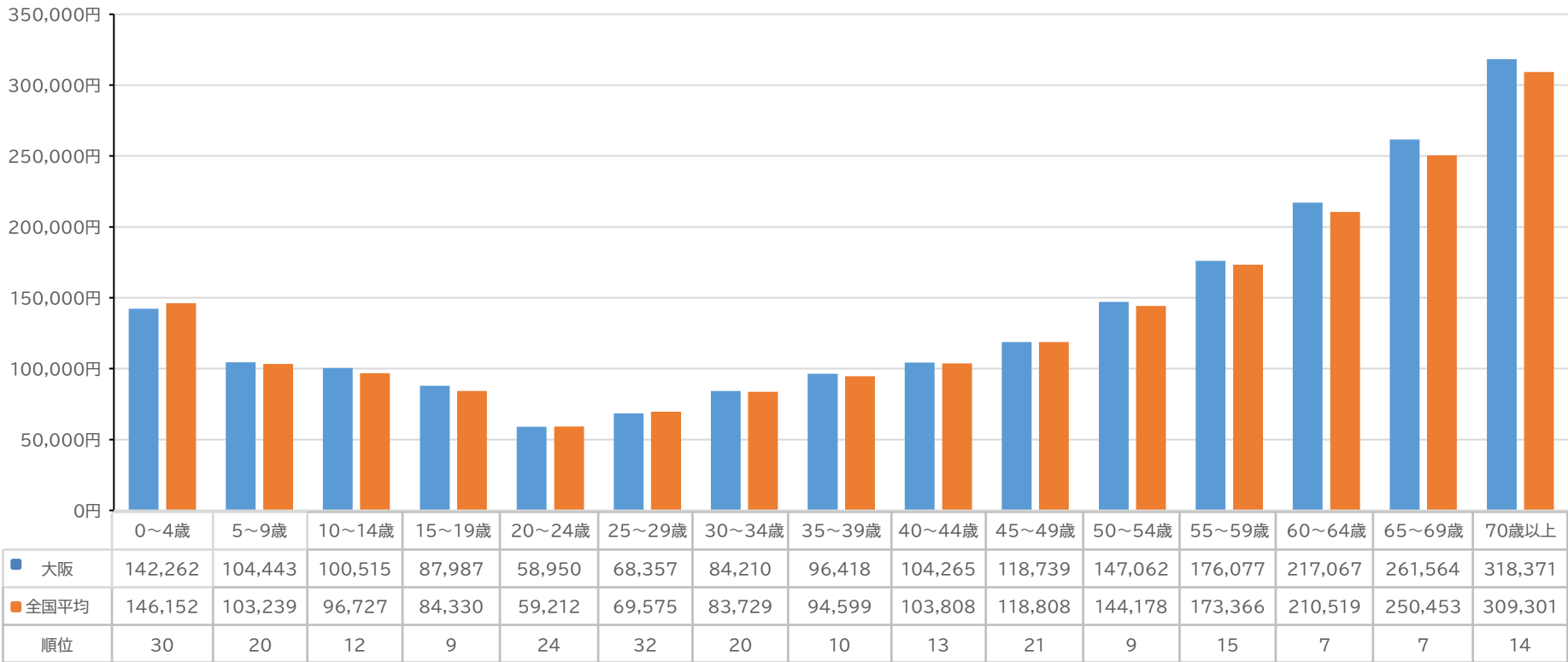
1件当たり入院外日数が多い支部		
1	佐賀	1.41
2	福岡	1.39
3	岐阜	1.37
3	愛知	1.37
3	大阪	1.37
29	東京	1.33
38	北海道	1.30
47	新潟	1.28
全国平均		1.34

1日当たり入院外医療費が高い支部		
1	北海道	16966.0
2	秋田	15600.9
3	宮城	15433.4
4	千葉	15402.5
5	岩手	15396.5
23	東京	14491.9
29	大阪	14263.5
41	愛知	13948.8
47	福岡	13590.3
全国平均		14526.9

8. 大阪支部の令和7年度年齢階級別1人当たり入院外医療費

- 加入者1人あたり入院外医療費を年齢階級別にみると、0～4歳および20歳～29歳、45～49歳を除くすべての年代において全国平均を上回っている。
- 特に60歳以上の年代において平均との乖離が大きい。

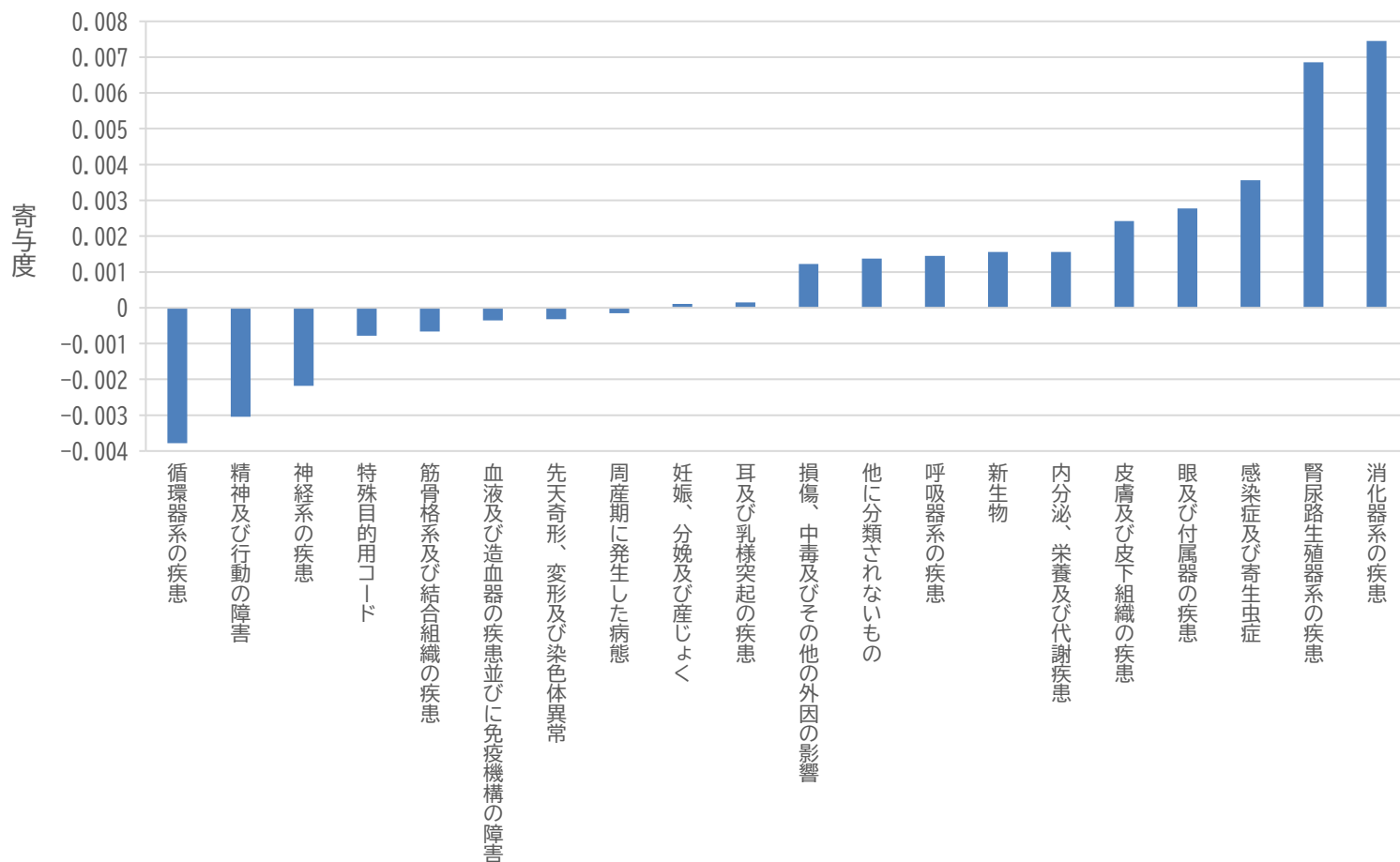
加入者1人当たり入院外医療費(年齢階級別)



9. 大阪支部の令和7年度疾病分類別の乖離率寄与度(入院外)

- 診療種別(入院外)全国平均からの乖離率寄与度をみると、消化器系の疾患、腎尿路生殖器系の疾患において全国平均からのプラスの寄与度が大きく(医療費が高い)、循環器系の疾患、精神及び行動の障害においてマイナスの寄与度が大きく(医療費が低い)なっている。

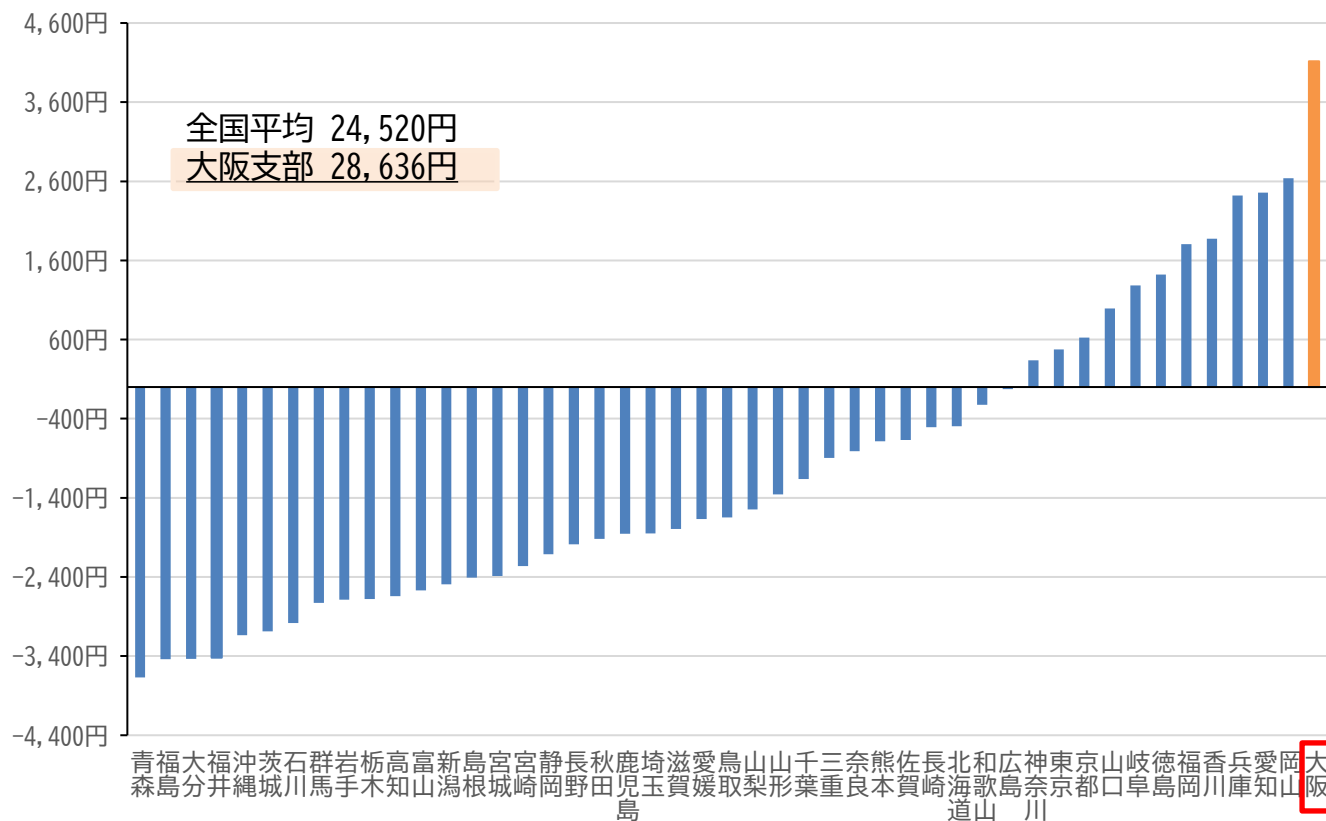
診療種別（入院外）全国平均からの乖離率寄与度



10. 支部別の令和7年度1人当たり歯科医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和7年度の加入者1人当たり歯科医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は、47位で全国平均より4,116円高く、46位の岡山よりも1,480円高い。
- 歯科受診率、1日当たり歯科医療費において全国平均を上回っている。

支部別の加入者1人当たり歯科医療費（全国平均との差）



歯科受診率（件／千人）が高い支部		
1	岐阜	2121.9
2	愛知	2118.8
3	大阪	2060.5
4	兵庫	2004.7
5	岡山	1998.8
8	東京	1984.3
11	福岡	1954.0
43	北海道	1659.5
47	青森	1555.9
全国平均		1905.8

1件当たり歯科日数が多い支部		
1	北海道	1.59
2	福岡	1.56
3	青森	1.55
3	大分	1.55
3	鹿児島	1.55
16	大阪	1.48
24	東京	1.46
43	愛知	1.40
47	山形	1.37
全国平均		1.47

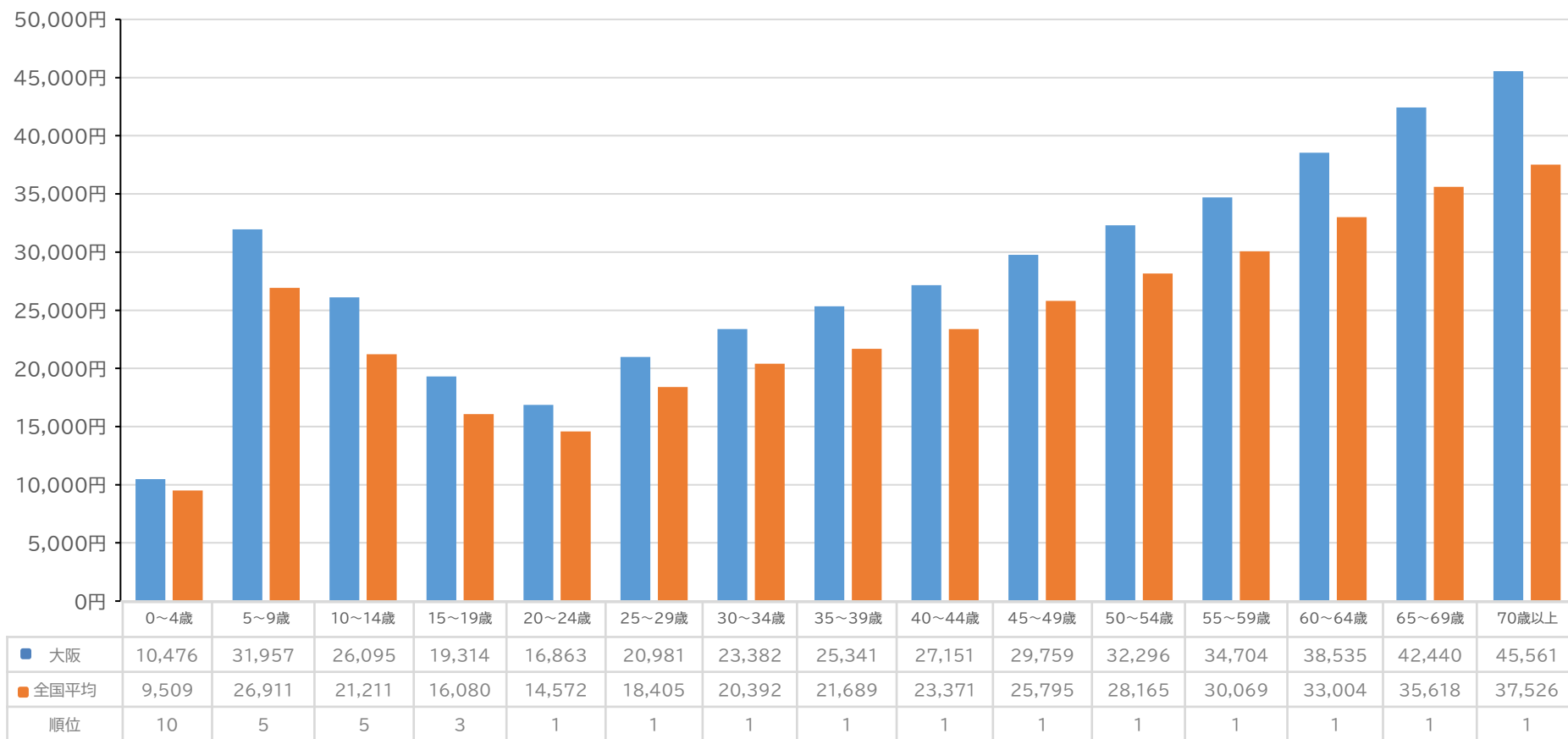
1日当たり歯科医療費が高い支部		
1	岡山	9577.7
2	大阪	9396.4
3	秋田	9313.8
4	兵庫	9267.1
5	香川	9198.9
6	北海道	9177.8
8	愛知	9128.4
26	東京	8656.7
29	福岡	8611.0
47	群馬	7883.1
全国平均		8771.5

R7 47位
(R6 47位)

11. 大阪支部の令和7年度年齢階級別1人当たり歯科医療費

- 加入者1人あたりの歯科医療費を年齢階級別にみると、すべての年代において全国平均を上回っている。
- 20歳以上の年代はすべて全国順位1位であり、特に60歳以上になると、全国平均との乖離が5,000円以上となる。

加入者1人当たり歯科医療費(年齢階級別)

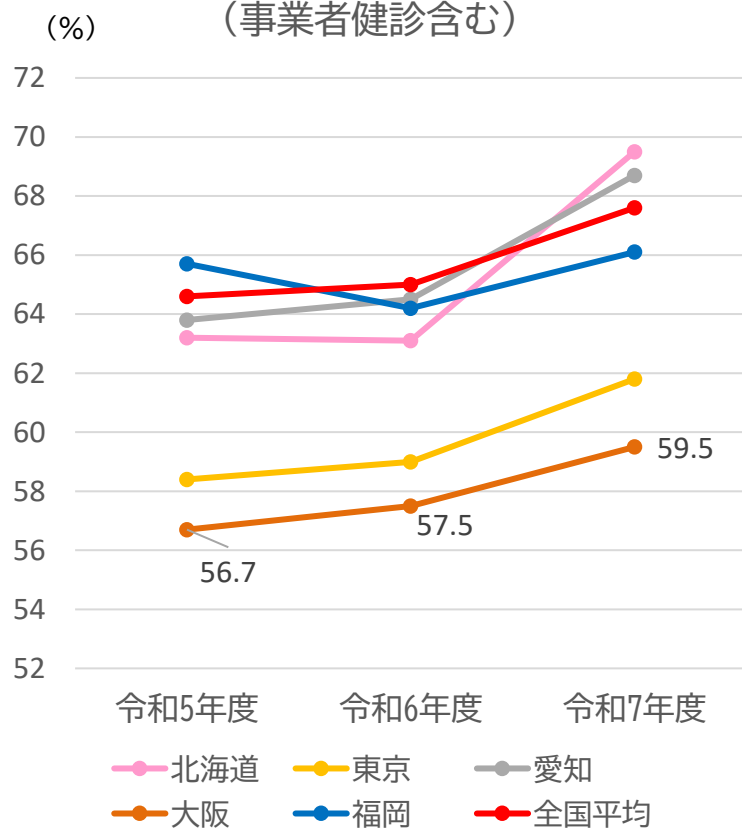


12.40歳以上の健診受診率・特定保健指導実施率

- 大阪支部の40歳以上の健診受診率をみると、上昇傾向にあるものの全国平均を大きく下回っており、5大支部では一番低い59.5%となっている。
- 大阪支部の特定保健指導実施率は、全国平均を下回っており、14.0%となっている。

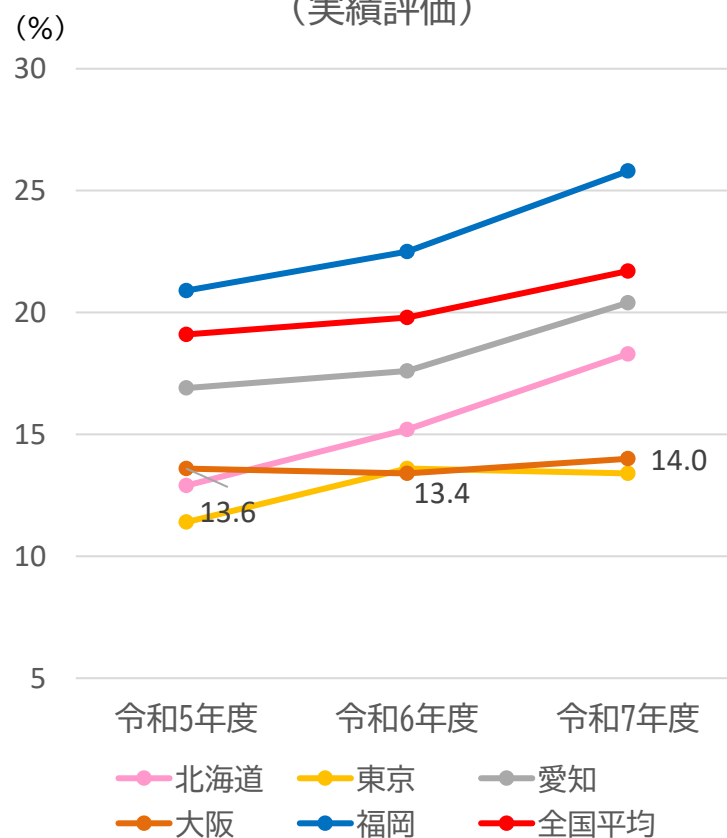
40歳以上の健診受診率

(事業者健診含む)



特定保健指導実施率

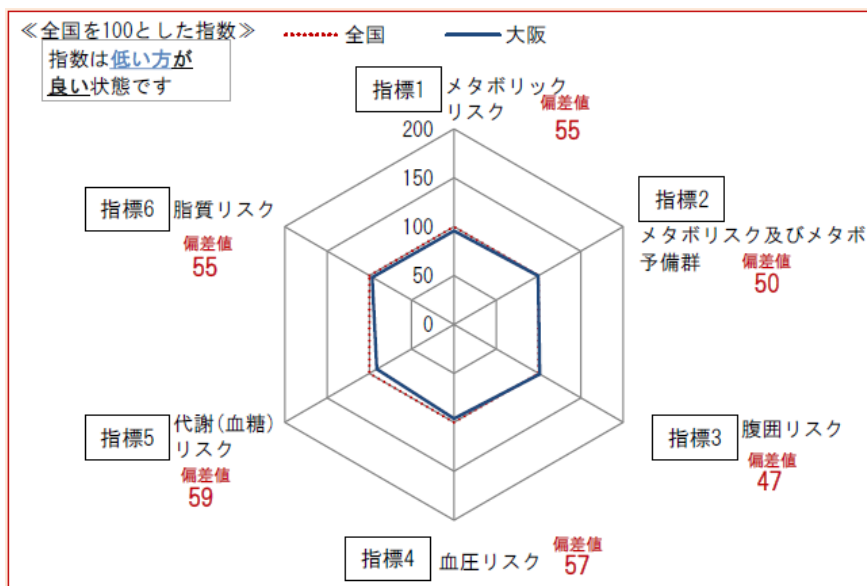
(実績評価)



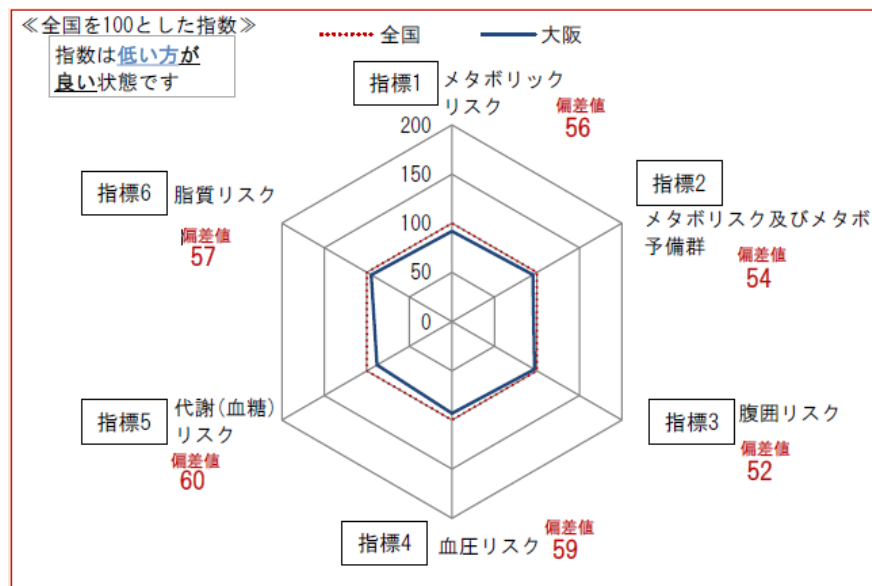
13. 大阪支部の各種リスク該当者割合等レーダーチャート

- 生活習慣病リスク保有者の割合をみると、男性の腹囲リスクが全国平均と比べリスクが高い(悪い)状態である。

生活習慣病リスク保有者の割合【全国比、男性】



生活習慣病リスク保有者の割合【全国比、女性】



※ 偏差値はリスクが低い(良い)方が高い(全国平均と等しければ50)。

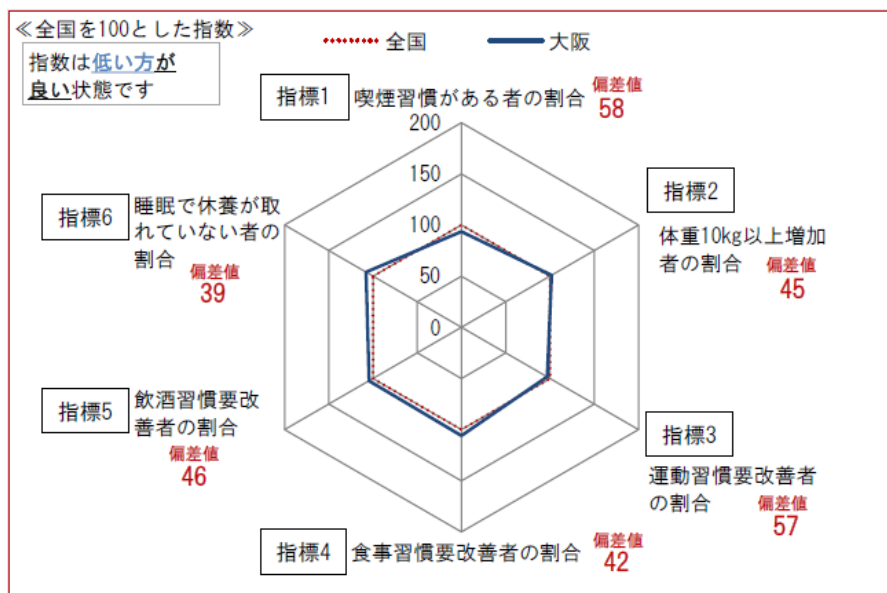
【生活習慣病リスクの判定基準】

- メタボリックリスク：腹囲リスク該当かつ血圧、代謝、脂質のうち2つ以上のリスクに該当する者
- メタボリック予備群：腹囲リスク該当かつ血圧、代謝、脂質のうち1つのリスクに該当する者
- 腹囲リスク：男性85cm以上、女性90cm以上(内臓脂肪面積100cm²以上を優先)
- 血圧リスク：収縮期130mmHg以上又は拡張期85mmHg以上又は服薬
- 代謝(血糖)リスク：空腹時血糖110mg/dl以上又は空腹時血糖未測定かつHbA1c6.0%以上又は服薬
- 脂質リスク：中性脂肪150mg/dl以上又は随時中性脂肪175mg/dl以上

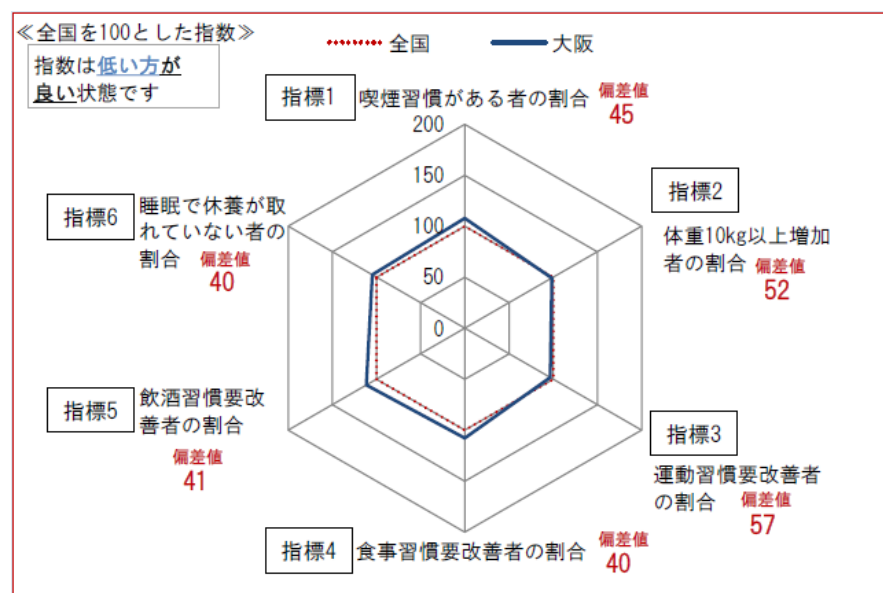
14. 大阪支部の各種リスク該当者割合等レーダーチャート

- 男性の生活習慣要改善者の割合をみると、体重増加、食事習慣、飲酒及び睡眠において、全国平均と比べリスクが高い(悪い)状態である。
- 女性の生活習慣要改善者の割合をみると、喫煙、食事習慣、飲酒及び睡眠において全国平均と比べリスクが高い(悪い)状態である。

生活習慣要改善者の割合【全国比、男性】



生活習慣要改善者の割合【全国比、女性】



※ 偏差値はリスクが低い(良い)方が高い(全国平均と等しければ50)。

【生活習慣要改善者の判定基準】

- 喫煙習慣がある者：「現在、たばこを習慣的に吸っている」に「はい」と回答した者の割合
- 体重10kg以上増加者：「20歳の時の体重から10kg以上増加している」に「はい」と回答した者の割合
- 運動習慣要改善者：「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上1年以上実施している」「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」「ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速い」の3問中2問以上に「いいえ」と回答した者の割合
- 食事習慣要改善者：「人と比較して食べる速度が速い」「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」「朝昼夜の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか」「朝食を抜くことが週に3回以上ある」の4問中2問以上に「はい(速い・毎日)」と回答した者の割合
- 飲酒習慣要改善者：「お酒を飲む頻度」「飲酒日の1日当たりの飲酒量」に、男性は「週5日以上+2合以上」又は「週3日以上+3合以上」又は「月1日以上+5合以上」(毎日2合以上又は時々3合以上)と回答した者の割合
- 睡眠で休養が取れていない者：「睡眠で休養が十分とれている」に「いいえ」と回答した者の割合

15.大阪支部の事業展開について

歯科医療費について

令和7年度医療費分析の結果、大阪支部の歯科医療費について、若年層の1日当たり医療費が高い傾向にあることが判明した。この結果を受け、令和8年度は歯周病予防と医療費適正化を目的とした医療機関サイネージ広報を実施している。また、動画については、専門知識に基づく正確性が担保され、説得力を高めることができる効果的な広報とするため、大阪府歯科医師会に動画監修の協力を得た。

今後も大阪府歯科医師会と連携を継続し、歯科医療費の適正化を目的とした事業を検討している。

循環器系疾患について

大阪支部において、循環器系疾患は、入院・入院外医療費の合算で新生物に次いで12.3%と大きな割合を占めている。特に、年間医療費200万円以上の医療費がかかっている者は、患者ベースで循環器系疾患の1.6%に過ぎないが、医療費ベースでは40.6%を占めていた。

高額となる要因の一つとして、「抗悪性腫瘍薬と免疫調整薬」などの高額薬剤の使用があり、併存疾患を考慮した受療動向の把握が重要であることが判明した。また、高額な医療費が発生した「大動脈解離及び瘤」の患者において、血圧高値、喫煙、肥満の複合的なリスクに該当しているケースが多く、重症化予防や保健指導の重要性が再確認された。現在、深堀分析を進めており、結果が出次第改めて報告予定。

消化器系疾患および呼吸器系疾患について

入院外医療費の分析の結果、消化器系疾患では、「慢性胃炎、胃炎」の傷病名が多く占められており、年間受診日数も少ないことから、軽症患者が多いと想定された。また、呼吸器系疾患では、「急性上気道炎、急性副鼻腔炎」などの割合が高く、いわゆる「喉風邪」「鼻風邪」に相当する患者が中心となっていた。これを受け、セルフメディケーションの推進につなげることが可能であると考えられたため、深堀分析を行った。

さらなる分析の結果、消化器系疾患については、併存疾患の割合が高いことやOTC医薬品の対応可能性が低いことが判明し、呼吸器疾患については、軽傷かつ短期間で治癒する者が多く、OTC医薬品の対応可能性が高いことが判明した。

今後は、セルフメディケーション推進の対象患者の絞り込みなどの検討を行い、次年度以降の事業に反映させていく予定。